

# Tambatitanis amicittiae の分類学的記載

2006年に丹波市山南町上滝の篠山川河床で竜脚類（首の長い大型の植物食性の恐竜の仲間）の化石が村上 茂・足立 洸両氏により発見されました。この化石は日本産の恐竜の化石としては例外的に保存がよく、マスコミでも大きく報道されてきましたが、これまで学名はなく、「丹波竜」という愛称で呼ばれてきました。

このたび、動物分類学の専門誌 Zootaxa の第3848号(2014年8月12日発行)において「丹波竜」が竜脚類の新属新種として記載され *Tambatitanis amicittiae* (タンバティタニス・アミキティアエ) と命名されました。これは発見以来6回にわたって行われた発掘により得られた化石資料の剖出(化石から岩石を除去する作業、クリーニングともい



写真1 化石の剖出作業

化石の表面にこびりついている堅い泥岩と方解石の層は、顕微鏡で見ながらエアチゼルという道具を使って少しずつ取り除いた。

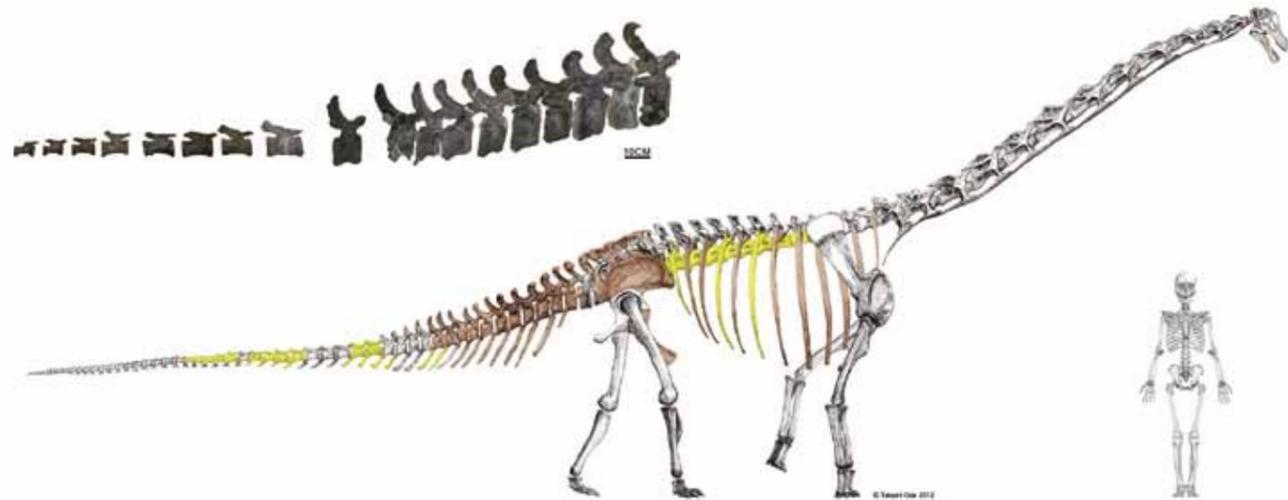


図1 タンバティタニス・アミキティアエの復元骨格図(©小田隆・丹波市)と尾椎(左上写真)

骨格図では化石の出ている部分を茶色(化石の出ている部分を厳密に特定可能)または黄色(化石の出た部分を大まかにしか特定できない)で示した。タンバティタニス・アミキティアエの8つの標徴のうち7つは尾椎(尻尾の骨)にある特徴。

う、写真1)と研究が進んだ結果、「丹波竜」はこれまで知られていない竜脚類であることが明確となった結果です。

化石も含め動物が新種として命名される場合、それを認定し登録する機関がある訳ではありません。命名上の規約(国際動物命名規約)に従って作られた新しい名称と一緒にこれまで知られている種とどこが異なるのか、その新種の特徴(標徴、diagnosis)を記述した論文を出版(最近では一定の要件を満たす電子媒体も可)すれば誰でも新種を命名することができます。タンバティタニス・アミキティアエの尾椎、血道弓、脳函には他の竜脚類には見られない8つの標徴があり(図1)、これにより他の竜脚類と明確に区別されます。

タンバティタニス・アミキティアエには他の竜脚類と共通する特徴もあります。どの種類とどのような特徴が共通するのかが手掛かりとして、タンバティタニス・アミキティアエはどのような竜脚類と近縁なのか、言いかえれば竜脚類の中のこういった仲間に入るのかが推定することができます。最近ではこうした推定は専用のコンピューターのプログラムにコード化した特徴を入力することにより求めることができますが、その結果タンバティタニス・アミキティアエは白亜紀のアジアに固有のユーロプス科の一員である可能性の高いことが分かりました(図2)。

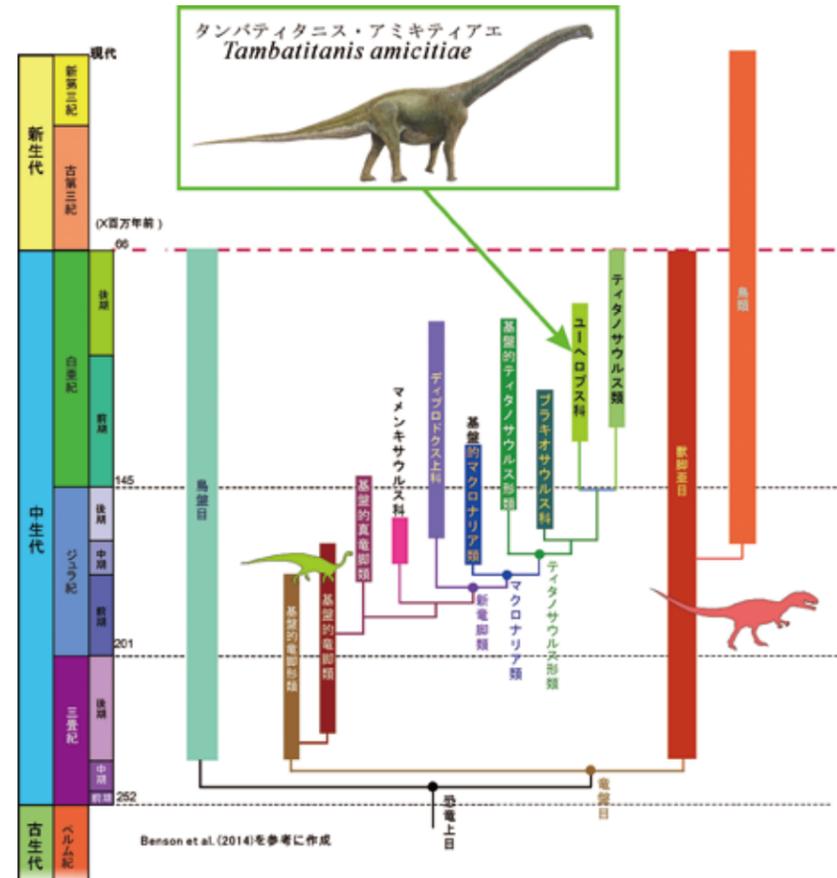


図2 タンバティタニス・アミキティアエの系統的な位置づけ  
ユーロプス科というアジアの白亜紀に特徴的な竜脚類の仲間であることが系統解析の結果わかった。

新種の命名では標徴の記述と同時にホロタイプ指定も必須です。ホロタイプとは新種と考えられる複数個体のうちのひとつを選定し標本としたものです。新種が公表されるとその論文で述べられている標徴によって新種が既知の種と区別が可能かどうか本人も含め多くの研究者により繰り返し検証されるようになり、さまざまな種が互いにどのように区別されるのか、その基準も改訂されていきます。その際、物体であるホロタイプがその種を代表するものと指定されていれば、たとえどんなに種の標徴が改訂されても混乱は起きません。ホロタイプはこのような分類学研究的進展による種の区別基準の改訂を保証しているものであり、人と自然の博物館に収蔵されている *Tambatitanis amicittiae* のホロタイプ(標本番号 MNHAH D-1029280)も動物の分類学がある限り半永久的に保存されなければならないのです。

三枝春生(自然・環境評価研究部)

## Tambatitanis amicittiae、その名前の由来

学名は属名と種小名から成ります。*Tambatitanis* は属名ですが、その Tamba は竜脚類の化石の産地が丹波市内にあったことにちなんでいます。Titanis は女性の巨人の意味です。巨大な竜脚類の仲間であることにちなんでいます。ホロタイプがメスであるというわけではありません。他のほとんどの恐竜の化石と同様に *Tambatitanis amicittiae* のホロタイプの性別は分からないので女性形、男性形どちらの名前であっても良いのですが、なぜか恐竜の種名では男性形の場合が多いので、バランスをとって今回は女性形にしました。種小名である amicittiae は友情という意味のラテン語 amicittia の語尾に e を付け属格(所有格)にしたものです。*Tambatitanis amicittiae* を直訳すると「友情の丹波女巨人」となります。恐竜ではしばしば化石の発見者の名前を種小名に使うのですが、発見者お二人の名前を並べると長く

なりあまり恰好が良くありません。そこで、足立さんと村上さんお二人と一緒に出掛けなかったら化石は発見されることは無く、これはお二人の友情の賜物に他ならないということにちなみ amicittiae としました。

三枝春生(自然・環境評価研究部)



タンバティタニス・アミキティアエの化石の発見者、村上 茂さん(左)と足立 洸さん(右)